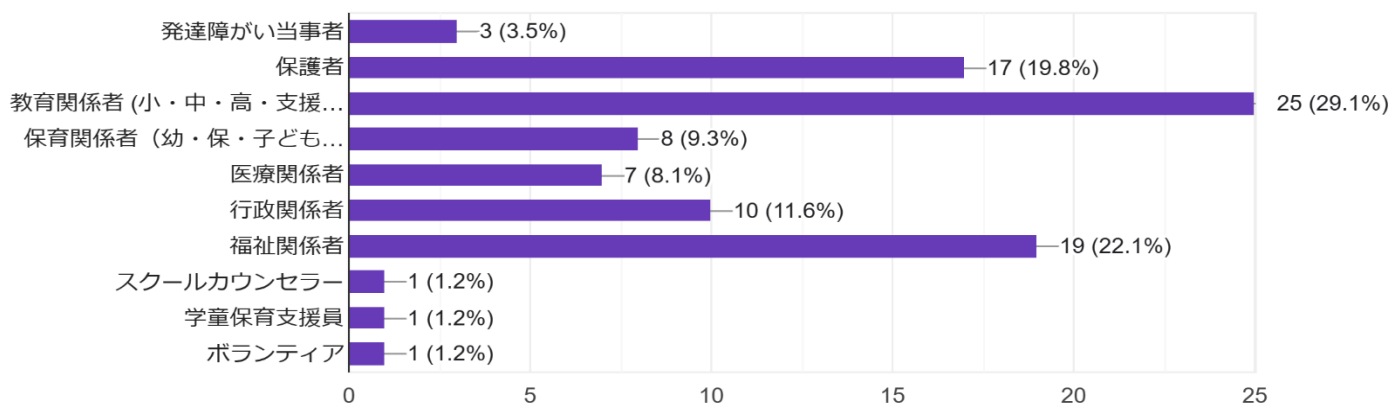


「発達障害のある人の自尊感情を育て可能性を広げる対応・支援の方法
～叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチ～」ご視聴後アンケート

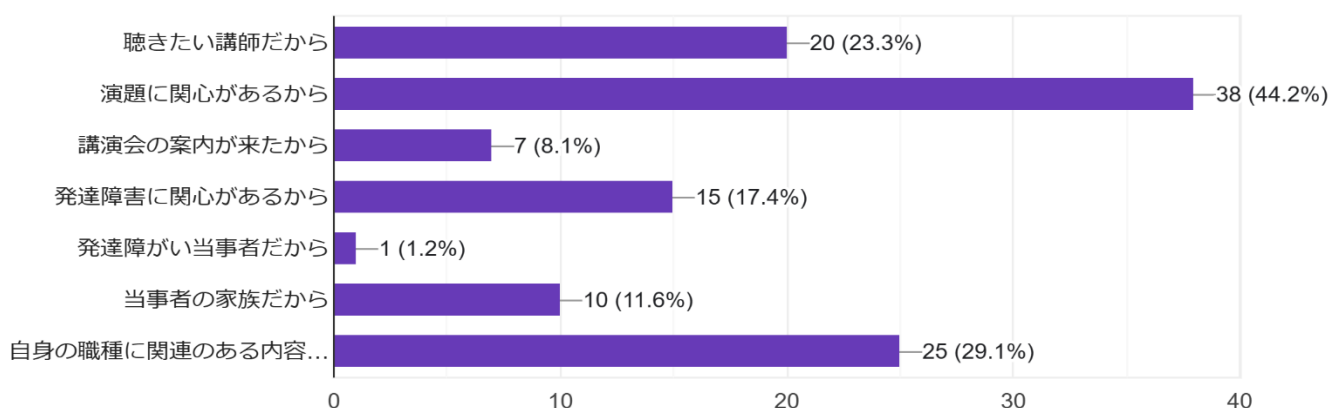
Q1. ご所属についてお伺いいたします。当てはまるものを1つ選択してください。

86件の回答



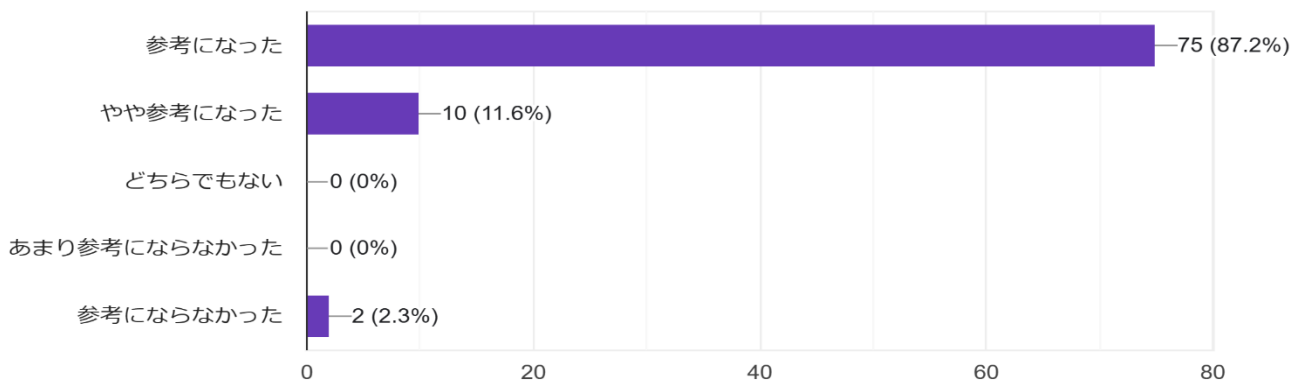
Q2. 今回の講演会を視聴された理由についてお...します。当てはまるものを1つ選択してください。

86件の回答



Q3. 今回の講演会はいかがでしたか。当てはまるものを1つ選択してください。

86件の回答



【今回の講演会のご感想をお聞かせください。】

現場では、やはり交渉提案に対する統一した関わりができなかったり、叱って行動を調整する場面も見受けられるのが正直なところでした。発達障害児・者と関わるなら理解しておきたい内容であり勉強になりました。(他3名)

説明がわかりやすく勉強になりました。事例で理解が深まりました。明日からの支援に活かしたいです(他16名)

提案・交渉型アプローチ、という言葉は聞いたことがあったのですが、きちんと学んだことが無かったので、非常に勉強になりました。特に、選択・決定のあとのサポート、後出しアプローチ(待つ)の重要性を感じました。(他1名)

レジュメも分かりやすかったです。質疑応答についてもっと聴きたかったです。無反応、叱らない、否定しない……意識して日々の業務に取り組んでいきたいと思いました。(他1名)

支援者としての関わり方について、大切なことを改めて学ばせていただきました。やはり、人と人との関係性(信頼関係)があってこそ、成立する支援方法であり、日々関わる子どもたちの成長を信じて、根気よく関係性を築き、取り組んでいきたいと思いました。(他2名)

YouTubeでの配信は聞き逃してしまったところ、もう一度確認しておきたいところなどをさかのぼることができ、また、資料に書き加えることもできてとても助かりました。まだまだコロナやほかの感染症も増えている中、現場に持ち込んでいならぬと、人の集まる場所を避けて生活しているので、そういう面でも大変参加しやすかったです。(他1名)

武田先生が考えられた、提案・交渉型アプローチを意識しながら子どもたちと関わっています。そのことの大切や方法等を改めて確認することができました。子どもたち自身の自尊感情を高め、生きやすいようになることを考えながらこれからも実践していきたいです。(他1名)

叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの面で事例などもありわかりやすく支援者としての立場でも勉強になりました。当事業所でも資料を基に施設内研修を行い、職員間での情報共有と支援や対応方法を考えることができました。(他1名)

叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチの面で事例などもありわかりやすく支援者としての立場でも勉強になりました。当事業所でも資料を基に施設内研修を行い、職員間での情報共有と支援や対応方法を考えることができました。(他1名)

今回の講演を聴いて、今後の指導のあり方について改めて考えることができました。しからないけど譲らない指導のあり方を全職員が貫いていくことができれば、もっと効果的であること、また、小さな枠組みを考えていくことの必要性もよく理解できました。(他2名)

大変参考になる内容でした。オンデマンド配信をしていただけたので、時間が出来たときに少しずつ聴いたり、復習で再度聴いたりできて良かったです。(他2名)

武田先生の話をよく聞いていますが、毎回初心に戻れる気がしています。トラウマ等、心理面でのしんどさを感じている子供たちまた愛着にも課題のある子供たちが増え、丁寧なかわりが必要になっている。が、丁寧にかかると子供たちの変

化が少しずつみられるようになってくる。まずは、キーパーソンになることを大事にし、提案交渉アプローチのかかわりを基に進めていきたいと考える。(他1名)

保護者さん支援の立場の私としたら、今まで私の考えとして提案させていただいてた事とほぼ同じ提案を、今回講師から頂いたことで、答え合わせができたような気持ちになり、安心できました。(他1名)

とてもいいお話を聞かせていただきありがとうございました。この内容は、是非是非多くの方に知っていただきたいです。(他5名)

今の職場の利用者様と同じような困り事があり、支援方法を模索中でして、とてもとても勉強になりました。是非実践させてもらい、その方の生きづらさが軽減できたらいいなと思っております。(他2名)

教育機関に勤務しております。教師が問題を抱える児童に厳しく指導する、説教するのを見て、いつも残念な気持ちになっておりました。全体を指導するために叱るということが多く問題を抱える児童が標的になりがちで、トラウマになるのではと心配になるのですが、なかなか意見を言うことができません。悩むところですが、私のできることをやっていくしかないかなと思っています。この講演を聞いて納得することが沢山ありましたので、私ができることを信念をもって対応していきたいと思いました。(他1名)

現在、就労支援を行っております。就職困難者もしくは、転職を繰り返す方には発達障害の傾向が感じられます。そういう方はとても自尊感情が低く、自分はダメだと思っている方が多いです。きっと今まで育ってきた中でダメだと言われてきたのだらうなと感じています。武田先生の仰るように、その子個人を認め可能性を広げてあげられるような子育てや教育体制が大切だと感じました。(他1名)

会社の研修で視聴しました。今までも幾つか福祉の研修を受けましたがこれまで聞いたこともない福祉業界の単語や横文字を使っただ話の研修だったので???という意識があったのですが、今回の研修は実際にあった具体例を元に失敗した。こうした方がよい結果になった。という例題を分かりやすく数をたくさん聞けて良かったです。(他1名)

武田先生のお話を聞くことで、自分の保育を振り返ることができます。また今どう対応すれば良いのか悩んでいる子のしんどさや関わり方が分かるヒントをいただけているように感じます。愛着の問題なのかなと思ってもそれに確信が持てず、先生たちにもうまく説明できずにいたので、改めてその子を見てじっくり関わっていききたいと思いました。(他1名)

実践はとても難しいと感じますが少しずつしてみます。(他3名)

義務教育の中でも、理解のある方無い方様々でやりにくいこともまだまだあります。(他1名)

子育てで反射的に叱ってしまうことが多く、そのたび反省し、彼の主張を聞いて(譲ってしまう)という悪循環に陥っていることがあるなど改めて考えるきっかけになりました。不適切な対応にならないように日々余裕を持っていきたいと思えます。(他1名)

武田先生の本は2年前に購入して、「叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチ」についてはある程度理解しているつもりでしたが、改めて武田先生のお話を聞いたり、資料を見たりして、細かいところのニュアンスを知ることができたこと、厚くお礼申し上げます。(他1名)

子供と生きていく上でスムーズに関係もてるヒント（交渉・取引、あるもの探し、自分が今対応できなければ次に対応できるようにする）たくさんもらえました。が、わかっている「待つ」は難しいです。と聴きながら1人叫んでいました。先だしもしがちなので、本人の意思を確認しつつが大切と感じております。

仕方がないとのあきらめの気持ちが譲ってしまっている事や母親が悩み苦しんでsosを出したとしても理解してもらえない大変さを感じた。

児童発達支援施設の職員ですが、今回のお話は職員はもちろんのこと、保護者の方にも聞いていただきたい内容がたくさんありました。自分の中の思いも先生のお話の中で改めて確認することができ、整理ができました。

学校現場は、発達障害・愛着障害・起立性調節障害…等。課題が多いので大変です。学校や保護者に対して、正しい支援が子どもへの正しい支援に結びつくかと思えます。具体的な支援方法を学べました。

子どものダメなことを見つけて、避けて安心させることの大切さがわかりました。また、一つ一つ子どもと確認してすすめていくことの大切さも痛感しました。実践でいかしていきたいと思えます。

拠点校指導員として、4名の初任の先生方の教室をみていますが、通常学級において発達障害が気になる子がかなりいます。「叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチ」を初任の先生方に提案したいです。

しからないけど譲らない、とても有効な対応の仕方だと思えました。しかし、自分の子どもや、福祉現場、小中学校の介助などあらゆる場面でこのことを、現場の人間が実践することはとても根気のある事で、介助する人数も余裕がなければ難しいと思えました。

先生のお人柄が滲みでるお声と話し方で、講演内容を抵抗なく受け取ることができました。

第2部での 自尊心のタイプや「ほめ言葉を台無しにする言葉」アタッチメントの内容がとても参考になった。

事の善悪しっかりと教える。冷静に注意。心にとどめていきたいと思えます。

講演会を視聴させて頂いて、気持ちが楽になりました。

武田先生のお話を、今クラスで大変な子どものことを思いながら聞かせていただきました。否定しない、叱らない関わりを目指して日々努力していますが、武田先生が話されていた教育的な無視が大変難しいです。「脳を安定させてあげる必要がある」というところが印象に残っています。2学期間かけてようやく関係性ができてきたと自分の中ではかんじているので、3学期は関わっている先生達としっかり共通理解しながら楽しい経験を増やせるよう取り組んでいきたいと思っています。学校が安心・安全な場所であるよう、また、予防的な関わりができるよう考えてみます。

現在、発達障害で二次障害を引き起こしている、また愛着の問題も抱えている生徒を担当しています。ルールを守れない、交渉のテーブルにのらない等、先生の講演で話されていた全くその通りだと思いながら聞きました。後出しの関わりが有効だということを知り、一筋の光のようなヒントを得たように感じます。意識して後出しの関わりを行きたいと思えます。以前に、～叱らないけど譲らない提案・交渉型アプローチ～の講演をお聞きしたことがあります。今回はより具体的なお話しで、理解しやすかったです。

武田先生の提案交渉型アプローチの本を5年前に支援学級の先生からいただきました。学校でも実践してくれていました。私も読んで学んだことを実践している中で直接先生の講演を聴くことが出来、さらにわかりやすく私自身気持ちが楽になりました。実際子供に提案、交渉し支援を繰り返していると子供の方から提案、交渉を出来るようになりつつあります。

子供が1番生きづらさを感じているのを理解して二次障害が起こらないように支援していきたいと思いました。

先生がやり方として、まずいことと言っておられたこと、結構たくさんしていました。だから、上手くいかなかったのだと、反省、勉強になりました。

ひきこもりの方や不登校性が増えている中で発達障害ではないかと思われる事例が幾つもあります。不登校でなくても授業中出ていく・集中できない・親子関係がうまくいかないなどで学校で困っている子どもたちの様子を見ていると発達障害が気になります。一般学級の斉授業の中で先生たちはとても対応に困っています。丁寧に提案交渉をしていく時間的余裕もないし、知識もまだまだ学ばなければいけないと思います。先生たちが学校文化の価値観で先出アプローチを押し付けているように思います。義務教育における合理的配慮がもっとできるといいと思います。とても勉強になりました。

叱らない支援の方法を具体的に話してくださっており、大変勉強になりました。中でも一部のアニメーションがとても良かったです。支援が必要な子どもたちの心の中が少しわかったような気がしました。

私は午前中は小学校で支援学級の非常勤職員、午後からは放課後等デイサービスで支援員という職種ですが、このような研修がもっとあればなあと感じました。

以上（アンケート集計後、集約して掲載）